明治 関 由 三 編纂

新撰 萬通用文

附漢語註解入

上

特33
285

特33
285

皇邦關由三編

明治新撰

萬通用文

附 漢、呉、唐、宋解入

東京書肆 田中經霜堂

公衆

特33
285

皇邦關由三編

明治新撰

萬國通用文

附漢語注解入

東京書肆 田中經霜堂

文

藁

明治新撰

萬通用文

目錄

一 歲端之文 同 壹丁

二 祭日人を招く文 復 三丁

三 春寒見舞之文 同 復 六丁

四 潮干之漁魚を贈る文 同 復 八丁

五 花見ふ人を誘ふ文 十一丁

同　復
六　追想端午某氏を賀する文　十五丁
同　復
七　梅雨ノ花を贈る文　十八丁
同　復
八　暑中氷を餽る文　廿一丁
同　復
九　納涼を約する文　廿四丁
同　復
十　博覽會同遊を促す文　廿七丁
同　復
十一　初秋致仕後舊友ノ與ふる文　三十丁
同　復
十二　中秋圓月ノ集宴を催す文　三十三丁
同　復
十三　菊花を贈る文　三十六丁
同　復
十四　神嘗祭ノ稅官某を旅鹽する文　三十九丁
十五　外國ノ在る友人ノ寄る文　四十二丁
同　復
十六　雪見ノ人を招く文　四十八丁
同　復
十七　寒中起居を問ふ文　五十丁

十八 三冬書籍を借ふ遺き文 同 復 五十三丁
十九 歳暮之文 同 復 五十七丁
二十 新婚を賀する文 同 復 六十丁
廿一 安産を賀する文 同 復 六十三丁
廿二 仕官を賀する文 同 復 六十六丁
廿三 新閥筵を開く文 同 復 六十九丁
廿四 火災を慰むる文 同 復 七十三丁
廿五 器具を借ふ遺き文 同 復 七十六丁
廿六 醫者を頼む文 同 復 七十八丁
廿七 病氣見舞之文 八十丁
廿八 喪を弔ふ文 八十二丁
廿九 洋學入門を請ふ文 八十四丁
三十 歸農せー人ふ寄る文 同 復 九十一丁

目録

㊂一 官遊をる人を紹介をる文　九十六丁
㊂二 逗留せゝ方へ謝ゝ遣を文　九十八丁
㊂三 新聞縱覽所開局の報章　一百丁
㊂四 祖先の祭日を所親ゝ報ぜる文　百二丁

同　復

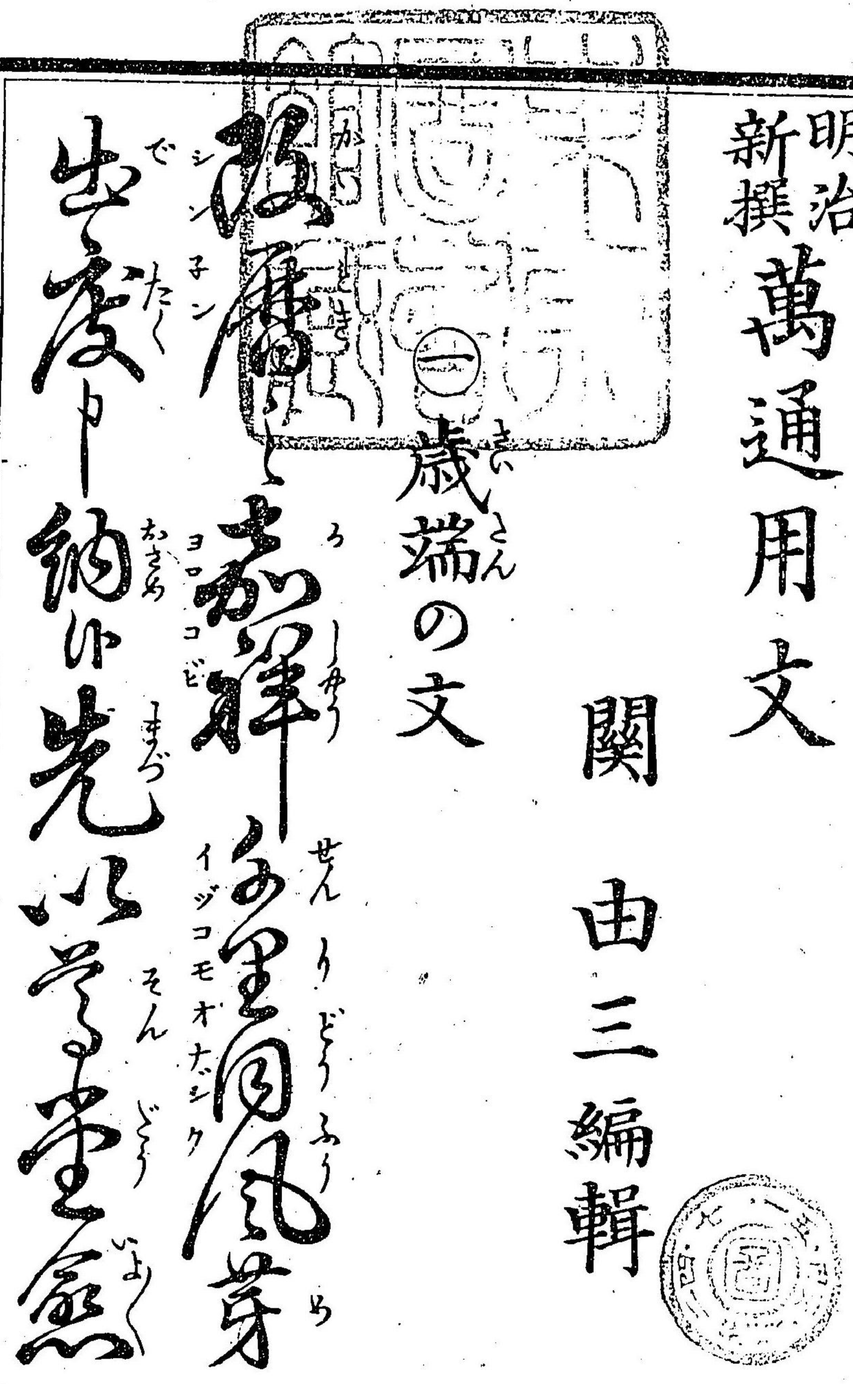
○用文往復通計六十章

終

明治新撰萬通用文

㊀歳端の文

関　由三編輯



御迎福御超歳之段珍重
之御儀ニ奉存候次ニ弊廬無事罷
加齢仕候乍憚御休心可被下
候随而末廣一對新海苔一箱
聊表新年進呈仕候
餘者期暄和芳來之時候
謹言

○王暦正朔○斗轉洪鈞上仝○三微入緒萬象
森羅上仝○柳眼舒金○王履踏順○曷勝
雀躍○福履迪吉不察而可○預使入
情融々可愛○更有瓊琚之試詩○聊賀
履端○拜侍座下○先辱眼儀○
當呈教大方○一叙請教下俚兼以暢晤

○同復

尊簡辱拝誦仕り候生命
履新こゝ吉兆茅里回風
弥増遠国祝福勝暢慶賀之春
乃至遠戸民百姓幸と

和順聲少なく所なく順伝配
意山太歳揚し治まて并て
謝恩吟山相復

(二)祭日人を招く文

西方ゝ而仰

茅茅を生じ杉楊祭日し
快晴より頗る可惟光の
獨酌作緒を造慨も亦の
トトリノンデアソブ　ノコリオホキナ
中より午牌より五三巡
十二時
藥廬に居る出家服す
オヒマ

出て出奇隙を待つ他人
オイデ
星霜を隔て重出遠志
出孫引つ取り跡上泥濘
ドロ
茶山卿を報恩首

○惟時惟日　加令相失
コノヨキヒガラ　ウレナハズ
○鳴轡事不在徴
ツシダテ　ホス　コウむニ
○少長咸集
セウちやうかんしふスルル　アツまル
○也不混俗
ナリ　ミだレバゾクニ
○謹當歩後塵
ツシンダテ　ホス　コウむニ

アトヨリマイルベシ ○興不落寞イロク オモシロキ ㊐詩酒交陳出談シトサケニテ ○
布恵我好音ヨキヘシラセ ㊐飛羽鱗而娯適サカナヲトバシテタノシムベシ ㊐
令時令日ヒキ

同復

退朝返踏者〻無僧〻仕と
躊躇仕り交傳然鳥封を
厚〻重〻惜屠〻敬喜山
ヒトレボノヨロコビ

二五三除〻大祭事不鼓腹の
三千五百三十餘年
美日〻除〻嘯〻孤奇〻〻の
談話ふ加〻〻当堂〻集富
毎〻雲霧を撥〻金嚢を
抱ごめく固〻〻繾綣仕る

幸ひ成島柳北栗本鋤雲
岸田吟香等諸学士今叩
扉ひて自往来同伴仕の外
単身人も何まも新聞編
者にて今日事情に大関係
あること更に孫誇すべきこと
猶及別稿系の仕の宣
(三) 春寒見舞之文
春寒未退の交冒御清適
伏祈こと也事存候
テフウチョロコブ

寒威を却て暖し
ふ濃先生記拍子
毎しの栽昨今
探梅し歌果も
なし世にを合
以来源何し風情も
し儀多謝ふるて
同合しけ島女雛祭し
廢却し今ゑし
五日旬を慶
祭りを加へ

なほ愚掛仕り候

如き一時脱旧慣ゆも遺憾ふ

少なから卿事を

ふ朔延を

二ヶ月後家人と慰らるも亦

甘坊兄右但四月合申迄

除を以て暇如く日茅陽この

上考時二形角少保養

是祈

○春寒入激喪○十日陰風○曉寒着力示春威

○未躍高堂既飽以德○不遑趨兼

○叩兼○不日登謝○特接田嘱

○野人饗應不過剪韭○伏祈矜宥○

却擾清務　○空勢扶駕

四　潮干の漁夫を贈る

罪を上邑に負ふ度を言ふ手段の
時を思ふ人に既に時氣忘却
し俄に児童を誘引

永代橋新架一覧を遂げ
佳猟獲を興
中に承及ぶ道来新橋
傳車傷る所川中
煙蓋也また海船陸車の

出ずして一華の[illegible]を[illegible]
實に児孫に[illegible]孫を[illegible]
中華と[illegible]等不階制
毛進呈仕る寛[illegible]献上した名古事
微意を笑覧[illegible]

○艶陽駘蕩春ヨリイ○幽興遥及シヒノ○海面平穏カニ
オダヤカ○即以付逐ツリニユイ○偶投絲綸獲此巨鱗ソノコノ
大キナ魚ヲエタリ○大海錦鱗鮮可食之ウツガアタラシクタベシ○嵩価奉
供キヤウニアテル○聊將芹意マコトニスシメ○忽然見賜荷愛良深謝
莫能罄タナマチヨキモノヲタマハリアリガタシ○不以凡鱗丁視ウトミズ○奇哉
得之メツラシキヲ○馳獻庖吏乞鑒鄙私カシワマデアルゴランナレ

同復

昨日を枚潮に[illegible]遊興殊に

意外に大海峡を渡り
来て義秋早速帰洛し
獲猟多く少恵投市年
自謝の御使五三度まで
不絶に生涯肥前の師
文王を待て生れ出る
こと大勉強飛ばめ大猟
只世に有る迄国捉
捧味仕る勝り雖言敵
器を出る武庫山に宗徴

一東住郎東郎 理提藍

㊄ 花見ヨ人ヲ誘フ文

新緑枝頭雲堪接花
爛漫〻ノ里金鞭玉轡絲竹
管弦〻聲 歴歴

実ヨ一村ヲ挙テ好樹唐
徒ヨ為暴風狂雨ニ悩殺セ
遺憾ニ堪ヘザル
散栄ヲ年ヲ層陳層ニ付
郭外可政道遥〻ヲ

小金井觀花行を奇僅花
二泊し道遥少日花以て
得失報答一笑間高
少為移年度議上牡
期如つて仮時節柄

看麗三流万変事を脱
却仕度早〻御首

○紅紫門芳花ノサカリ ○百花撩乱同 ○良期難再ヨキオリ
○若被風雨一妙孤負三春風ヤ雨ニテ花ガチリスハルニソムクダウリ ○
却約某輩同往外ノ人ト ○春色惱人豈憚一醉サケモノメル
○不宜默々内ニハイラレヌ ○延滯過限オソクナカレ ○諸兄慰詩在
此ミナ ○為花増艶惟冀勿外花ノタメニアゼニヨクヤクメクヲハジスナカレ ○謝賜
見召マネキアツカル ○豈負雅命オホセニソムカヌ ○逐驥尾オトリニ

忽辱寵召謝々○壮遊祥○続祈莊此
○春艶教人興忙情狂人ヲヨスー○逐扶摇願称勝遊
○其肯偕樂乎謹侯○久負一軼ヒトツクイシヨニナラズ

同復

如示諭一時千金ニ候雅
懸上山打栖ハ全ク觀光
ニ議案ニ辱シ〻ニ張雀躍
且彼地ハ十里ニ樹ハ吉野
ニ移ル木ニ殊ニ玉川ノ
流景致頗ル美水ニ
ヲ襲ル衣服腸ヲ潤タベク

都にて雜巾絞置比まれば
塵に佳境一層
風流もてあそぶ事
殘りいと少し
多き可思合立常
於て其事を美
追想端午某氏を賀する文
軒端に菖蒲艾樓外に風
樵世人往ふ脫奮慣者も
有に故立亦茅屋音

雲情不得已而陶
令玉初逢天中長
[illegible]少祝後[illegible]
蒲酒一樽[illegible]
偉業猶[illegible]堂下[illegible]祝

四生育無疆盛運
遇恩旧事微衷
再[illegible]

○復値浴蘭之辰五月ノ○艾酒奉邀屈臨少欲ヨモギザケミマネク
キメレトイフ○楚愁何蕩討○晒入荷々セラレヨ○惟祈莞存
ゴシエフタダサレ○滋味最義令人咀嚼無窮乎謝ヨキシナヲタマハリシレイヲ云フ
○熟粽幾把

同復

墻頭に猫花を遊び天中
に佳節を別て春の梅の
伝四懐聊か豚児に祝儀
蒲を掛け艾を挿て佳節を
祝し奉る愚夫愚婦
に庶幾は推参て下は
無き蒲酒一杯を祝し
芳意忝く受て仕は業
野味肴に貴賤無く

粽菓一筐廊下聽雨
出莞留のうゝ猶後年
思出家とゝ蘇とつゝ
ゝ雨山春度

㊐ 梅雨ゝ花を贈る文

梅霖連日樹陶ゝ如ゝ愛
起居如何暮ゝ春光少数
寄窺山壁居徒然頃日
殊ゝ外覚世間加ゝ
生涯ゝ意惰懶出門稀ゝ

増尖巒山巨定
砦を菖蒲花一本昨年
坂切村とり打系し
一義にて西郷惱殺乱
綜仕る艶色を勝ゆ様に

なれば自賛捏造一首を添
星一笑ゆ為に催吟愛し
情ゆゑ本懐を遂ゆ餘名
以本梅こ時期面暗
ゆ愁

○細雨連綿呂カナアタリツヅク○草閣蕭々サウイホー○苦閑
○守欝○令淡無依ハナガアタニテミダレル○為君一剪浥露清香
スベイロノヨキ花ヲ一ポンキリテオクル○敢奉一本以供清賞○増感
幽艶可愛ヨキハナホメル○拙律一篇○敢求一博一ラフ○擊
節朗誦シヲギンズル○幸即繩削賜回シテ○即宅杖
顧ノイブノリレ○令人動興ヨキコロモチ○幽闌

同復

寂寥ニ悵然ト花瓶ニ新柄

出自賛ニ菖蒲花大窮愛
ニ下直ニ瓶中ニ貯ヘ愛翫
仕少変ニ覺欝気除苔
減ニ出手裁ニ頓而郭臺
駝ニ三合ニ遊ニ歩ト為

是又芝兄滿腔詩腸之所
為と事教服ッ拙家に窗し
杜鵑花目今滿開に遇る
期日出覽に付可申拙
拝謝

八　暑中氷を贈る文

酷暑熖〻如赫身頭を連る
し炎塵を吞縛風〻頻執扇と
覺ゆ尊閣動止如何とか
打るを吞水飲脱食殆委微

之技を[illegible]弘を
以て学術を研究し
製造以来[illegible]変[illegible]の味
冥変[illegible]二[illegible]人[illegible]
伯仲[illegible]得[illegible]窒[illegible]開化

こゝ一端及吾心事[illegible]感震
[illegible]少[illegible]
[illegible]少[illegible]
[illegible]

火威灼々漸覺消金[illegible]○火塵撲面同上○不段
一些風涼カゼガスコシモナキ○殊有毒人ドクアリ○出身露脉
○氷室コホリ○頗可入口ニ緑リガアリ○可以止渇解煩カイドノトマル

同復

源是燦々甚だ人を通る
四国揉凌兼の先祖仙家
世意孤孤亦重其恭喜山孤を
為る命の汎国山子製々々
珍漢山恵投頼り高足
下多年学都研究々々
所為日新々豊の造化
工を奪ひ真道を政製を作仲
この技熟中殊に意表出ル

儘ふ取敢ず味はひ変化
堂奥を極るのみならず胸
膈を清涼とするの功験
を顯はし愛撫孚育の恩
と雖も豈又た天の德澤と

此国意を感佩猶不日
再題の事多謝不宣

九 納涼を約する文

新涼き炎暑者甚しく極度
変化して半熱風を借り

来れば国者に場為に出る
即刻上野忍池辺まで
追晩孫保岡然共も
西三百前より満池者
場所まで孫二の堂脱ル

出家通もいり仏仏
併我堂通常愛脱も
風情庵天女廟邊
移て小野の仏陽
面白

○炎威幾甚〻〻 ○故無涼亭水屋〻〻 ○居無
緑蔭同前 ○即欲呼弟晩歩乗涼 ○尚冀一出必
在湖中水辺ノスヾシキトコロニユカン ○必以近湖間 ○未許清風瑟々掃
煩花ガスユシモ ○衣不給能〻〻 ○只難郷邂〻〻

同復

葛衣難荷此頃之舞雪
壇上〻〻移遊を為〻〻求好音ゆ

杉柄徇源思〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻を
蒙り芋國樹山〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻を小西湖に
蓮蕖清香弦中〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
涼風秋を待て〻〻扇〻〻位
置を忘れ〻〻事〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

仕ル分ニ校書西三君ニ携ル
ヒ得忠陽ノ事ヲ即ヲ出
ル象牧洛順ニ四誘
引ヲ者

十 博覽會同遊を促す文

一重ヲ帷子若身何方ニ
出ル事ヲ存ル志陽ヲ永日
徒ニ清光仕ル背ル本意ヲ
蓋シ高議申置ル幸樹
博覽會所ヲ開館ス

山家散々ゆゑ弧源孝岡体
佐賀ハ承及ぶより取歐米
新規輸入器械并珍禽
奇木ハ最可驚目物ニ
実ニ海外ニ珍物ハ見ル儀
聖世ニ賜ハ古人目百笑
ふ如一見僕輩愚蒙ニ開眼
を開く好機會ニ有ハ若シ
回意ゆゑ年後第二時頃ハ
必ず来年待ツ備

○金石流行○近日荷暑（コノゴロ）○故著小走奉要（ツカヒヲ）○束装以待（モッテマウシアゲル）○只勿以外策相議（ホカヘヲナカレ）○如不鄙遺恵好意（トモニ）（ヨシミ）○味一趨京（マタスグニ）○新陳羅列頗驚眼目（ヒトヲ）（ヒトヲ）（ヒトヲ）（ヒトヲ）（ヒトヲ）（ヒトヲ）（ヒトヲ）（ヒトヲ）

同復

雪愛拭汗奉陳仕然ハ
博覧會出寵誘之儀實ニ
友愛之情事ニ耐ヘ事遠
回伴之情敬々敬々
用欽之本邦古器珍奇和
之展覧を達ひ各国貴物
実功を尽し国之富強を

表を飾る物品まて我輩し如
き愚眼も他日活学之一助
この石牙出国り後只管
懇望仕る幸ひ多数有
こゝ百萬世務より舟行

十二 初秋致仕後舊友ゟ與る文

菊来時疎闊懇こゝ五年

時下秋冷候賢契倍
加勝常幸恭拝光漸
遂多年宿志明月墨
堤白鬢初可偏屈以
朝対波山一髪暮臨
墨水急流文人墨客
来訪回垂帷読書除暇
酒茶三昧色香妙光
佳味七草園満開且
田野秋色一際の光景

病ヲ以遂歩便宜打法

狂駕幸ヲ待ツ二尤帰途ヲ以テ

手脚ヲ遂ケ少ク有ル勝中

為ニ為ニ為ニ為ニ

○秋涼可愛ノヨキ○僕徙居有日矣ヨリナガシ○自

甘野蔬ヲ甘シキヲ○静備カ○自欲晦跡養老ヲ

少念塵界○菊綻黄金恰値喬遷キヲヒラクトキ○必不聞

月里仁矣ヨキ人ノスマヒニテ土地モヨクナリシ○兼儀引意尚容奔賀ヤウヤウ

○可往賀上同○貽謀善哉ヨキカナ○本末之作意自

別也○養素於丘園

同復

違間日久彼呪陀奄由接手

ゆ文審草移居狀欣慰

玉章を実に重ね都下
名勝の地酔花孤自幽
観雪不四時清景所謂淡
粧濃末総宜況して
如此老体功成名遂て身
退者に非ずと言ふ迫間に所為迫
大業に過ぎたる山形の源
こゝに休暇を以て同僚五三人
数業の仕組絹の百七茶屋
拵り茶に孤問十五年

鳥獸決而山野に出ず
不既

㊐中秋圓月集宴を催す文

武藏野に月は草間より出て
茅屋に送まし圓顧まるる

仍當八秋に嘉中原習
三五に面を以て家獻熟芋
少なるに風習りより
抽彩和橋解者茅示彼是
遊戯無事に華ひ滿已

無雲月光如滴珠新葉
こゝ南樹取可賞觀
四圍陰少
秋色平分蟾光如滴胡仙
○桂魄團々金風微扇
月カマルクキレイニテ神ヨクスベキギセツ
○良夜一樽無伴友多幻ナイ○過承携賞

○倚樓吟望ニカイデナガムル○啜茗含芊憶攀遊月ヲナガムル
○盡宜賦詩酬醉ヲショウズニ○念天遊一月ノ○氷輪蕩漾同
○靜翫一空明月則チ○蕉影乱階ニバセウニ月ノ○無纖
翳月ノヨキ○莫將冷眼相對上○徑須搜腸共賞ス

同復

如仰武陵桃花の月靜
春景ゆたかなる遊興ハ

事も忘常取今霄を
十五夜を水鶴の里皎々
と妙澄宴に希有
良夜に岩漫々山世曇約
毎朝々餘芳室に獨酌

仕り交傳に月見の宴より
受招移事謝珠に
手製し半魁九孫の
形栖自義盃盧し理霊
存佐山多に即敬扇し

節を謝

㊂ 贈菊花文

菊花遶屋遲不早愈
明年也學香偏使物
白居易童子陶彭風流

呼酒無物我山中最也
黄白二淚粧相勝為
世慰星覽仕宮中
脫二情山尚無東離閑
光色少以郎の偏佯使

賜光臨幸甚

○東籬晩色衰露合霜紅徑黄菊○高人賜○謹貯小瓶中拜翫○浩然自慰○香色奇艶殊可愛○欣慕久矣適承見賜○可人者庭際一叢○意出千金萬玉

同復

見事なる黄花御恵投成下不日辱謝早速

瓶中に貯賞翫仕候

吟冒忽ち風起恰も

陶家し風流浮酒皮存遣

章を明らかに使者を以て
生涯に斷金を落ひ一樽を
携へ推参この体なり
(出)神嘗祭に税官某を旅驢する文
萬尾日章を飄へ四民
豊年を唱へ一年收穫し
祭日と章恐賀に兼れば君
ゆ殷税官より為轉任九國
勝巡行し世俗多忙なり
推察体實牧民官吏

土地〻豊歉を見風俗を察し
上ハ政朝〻大任を奉ず下ハ
万民〻安逸を祈り所謂
一挙両全〻業を執行し
経世経国〻功の効ある道
減る農事〻を幽風〻質朴
を体し倉庚鳴て蠶桑〻
務鶏振羽蟋蟀入牀まで
一年〻意可思遣宮室
秋穫も亦麻貢賦輸納〻

有〻定而出豊軟正〻行〻
あ〻ん色早速移麹の仕〻延
塵事に取紛れ事遂げ百
以豚児さし仕中の通り能而八仕而
花落と生り臘〻落を

て〻社稷巻之別而中〻国典
受人〻〻餽送〻〻禁令も有
〻〻得て親戚故舊〻〻剣を
以て出祀当の名〻〻猶以京
〻〻節可祝成功〻〻大業而〻

石悲

○黄花散金 見上 ○聞說榮行定在數日 ○聞得發征鞍 卷末 ○僅想冗忙故不送別 ○微物數種 ○以代驢意 ○滿懷心事嗣容歸時再叙

○又被輸官賦役忙 カタニマハル

十五 外國ヨリ在る友人ヨリ寄る文

時下秋冷層を衝き山

冒を露し候筆研益

勝常祈賀〻る至存候偖

一別以来未得一封之厚信

如何起居如何哉先生老

大人兼及り変英國

龍動の高留しを空に螢
雪しし功大進歩すし事と
雖も彼を在り是を下天授し文
性異日経済し偉業を
期しそこの鼓企望僕輩

謗劣仰羨しそこの慚愧
不堪陳べ愚弟儀来陽
八是非とも此彩費航海可
為政心得何今の業固と有
是下祝海日祀もそこの

以便船少指揮
那山且西澤後紫田等
之諸書採用
四報知すべき尚本邦
近時景況為後報知の

新聞紙五種遞送仕候
後便差樓後者

○與君分袂叢菊兩開ニ○一別三秋○
羇中情態若何○貴社堂中總無外累○海角天
涯○辱兼華翰展卷不措○卷舒自在○莫勞翹首
○鄉念彌切不勝寄洎○臨書不勝眷戀之至○隔楮曷忍瞻仰○
盥漱拜讀○此悉家居平安慰幸○起

居清福否　○足以歡賜

同復

音信疎闊既閲二春秋
本年九月中去年海
兆脚初出〻尊翰厚
蒙德佳命愈動止但安意
〻但称〻〻僕倫敦左
留中彼是蒙慈情垂意
厚渥〻恩事殺兼好謝也
祇〻天賦愚魯差渋〻〻

小將其只管学業勉励之
尾能帰朝仕度勉度事
必今年念明事ハ洋行之
僕別途航海記行ト中者
毎ニ出ル当地東洋航海

ト者能聊所聞博一
榮小將西洋旅案内ヲ
書於僕軍可否決定難
仕又手僕航海路程ハ
佛船すて上海香港ト

柴棍へ立寄り新嘉坡府
狼亜丁蘇尼拉峡見ゆ
亜歴山大を発し
亜歴山大を発し
再び地中海を渡りて日数
九日五十三日にて仏国馬
塞里到り巴黎府より五日
程を経て昨春漸く英国
に到着し車を更へ
航海規則に成り難き成り甚
だ新聞紙世界恵略抄

貴境ニ近況眼前ニ如見て
覚ゆ右草〻先達
及ゆ餘ニ帝米両國郡
便交換條約ニ注ぐ五ヶ月
時ニ二申贈各也

明治 関 由三 編纂

新撰 萬通用文

附漢語註解

上

特33
285

080473-001-8

特33-285

万通用文

関　由三／編

上

M24

DAC-4674